

中国5県絶景の旅⑦

「エディオンピースウイング広島」

——広島の新しい歴史の幕開け

振り返ると、わたしが本誌でレポートするのは神社仏閣ばかり。個人的な好みなのであるが、歴史ある場所なので書きやすいという理由も大きい。今回は気分一新、広島の新名所、サッカースタジアムの紹介である。

Jリーグのサンフレッチェ広島を応援する広島県民のひとりであるが、試合を観戦したことは一度もない。人が多く集まる場所に行くのが苦手でレポートするのは神社仏閣ばかり。個人的な好みなのであるが、歴史ある場所なので書きやすいという理由も大きい。今回は気分一新、広島の新名所、サッカースタジアムの紹介である。



条例上の名称は「広島サッカースタジアム」



敷地面積約 49,900 m²、収容人数約 28,500 人

半に激しい雨が降ったことを思い出した。駅員の人にバス便を勧められて、駅前のバス停から7時30分発の高速バスに乗った。

芸備線利用が目的の一つだったので、三次駅でJRに乗り替えることも考えたが、降り降りするのが面倒で、そのまま終点の「広島駅新幹線口」まで乗車。以前は米子駅と広島駅を結ぶ「急行ちどり」が運行されていて、庄原駅から広島駅まで乗り継ぎなしで行くことができたが、今は三次駅で列車を乗り替える必要がある。バス利用が増える理由の一つだろう。日曜日のので、バスが停留する度に乗客が増えてくる。

9時40分、終点到着で降車。4

月に新装オープンした広島駅に行ってみる。駅ビルの2階の「自由通路」の人混みが凄い。インパウンドの外国人観光客の姿が目につく。体格が大きいので圧倒される。きらびやかな店が並んでいるが、とくに欲しいものもないので、市電乗り場まで往復しただけで構外に出た。通路でゲットした観光用の地図は英語表記のものしかなく、日本人も大事にしてくれよと切に願う。

地図とスマホのマップ・アプリを頼りに、広島県立美術館を目指した。都会の迷路のような路地と慣れないアプリに苦戦して、残暑の中、杖を頼りの歩行に疲労困憊、冷房の効いた美術館のソファに腰を降ろしたときは、しばらく立ち上がれなかった。

「特別展・古代エジプト」を開催中で、チケット売り場には長蛇の列ができていた。迷ったが、せっかく来たのだからと常設展と特別展がセットになった入場券を購入した。

常設展の方から観覧する。奥田元宋の「青山白雲」、三次の奥田元宋美術館には何度も行っているのに、知己に出会えたような嬉しさがある。平山郁夫の「黄河（晨）」、平山郁夫美術館を6月に訪ねているので親しみがある。展示作品の一覧表を手に、気になる作品にチェックを入れながら歩く。

発行：どら書房

誌面デザイン: ROUTE183
協賛：九日市愛好会